

地域教育
情報紙(25年度)
第5号

風と光

平成25年10月22日発行
＜担当＞富士・東部教育事務所
地域教育支援スタッフ
秋山俊一・高野 修
小林統也・杉田 眞

富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、地域教育の「横の連携」と「縦の接続」を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。年に8回程度の発行を予定しています。

◆ [子どもたちの手で制定された「山中湖村子ども憲章」]

子どもは将来の希望、子どもは未来の力

山中湖村では、平成22年5月に『山中湖村第4次長期総合計画』を策定し、今後10年間を見通した「まちづくり」についての諸施策を広く村民に示しました。

その中で、未来を担う子どもたちの健全育成にかかわって、村独自の「人づくり」についての提言がされました。この提言を受けて、村内の保育所や学校、家庭や地域、行政や諸団体がどのように村の子どもたちにかかわり、どのような人づくりを目指していったらよいか『山中湖村人づくりビジョン策定委員会』が組織され、話し合いを重ねた結果、本年7月末に『山中湖村の人づくりビジョン ～子どもが主役の山中湖村～』が提示されました。

こうした流れを経て、山中湖村では、保育所・小学校・中学校の子どもたちの手で制定された『山中湖村子ども憲章』を軸として、村民一丸となった「子どもたちを見守りはぐくむ教育」が推し進められています。



◆ [富士に学び 富士によりぞい 富士と生きる]

10月3日(木)に南都留地区社会教育委員連絡協議会・公民館連絡協議会合同臨地研修が行われました(大森茂廣 地区社会教育委員連絡協議会会長・越石節代 地区公民館連絡協議会会長)。本年度は富士山世界文化遺産登録に合わせて、その構成資産を巡り、地域の人たちの生活とのつながりについて考える機会としました。今回の研修会は、県公民館連絡協議会において富士・東部ブロックによる活動ということもあり、北都留地区へも参加の声かけをしての開催となりました。

大月市・上野原市からは社会教育委員および担当者合わせて10名の参加があり、南都留・北都留地区の交流が深められた研修会となりました。研修施設は、「御師の家旧外川家住宅」「北口本宮富士浅間神社」「忍野八海」「四季の杜おしの公園・写真絵手紙美術館」と一日では充分すぎるほどの内容のものであります。

まだ残暑の残る秋の一日でしたが、参加者たちは普段目にしていない場所でありながら、富士山と人々とのかかわりを改めて考えさせられる発見の多い有意義な一日であったようです。今年度から3年間、このテーマにおける臨地研修を計画しており、次年度の予定は、富士河口湖周辺の構成資産を対象とした研修とのことです。



◆ [平成25年度 青い麦の子大会]

9月27日（金）に富士スバルランド森林公園（ドギーパーク）で、山梨県南都留支部特別支援教育研究会主催の「青い麦の子大会」が行われました。南都留地区の小学生96名、中学生29名、教職員120名余りが参加しました。体育館での開会式は小学生の子どもたちの司会で進行し、参加32校（小学校21校、中学校11校）の児童生徒からは元気いっぱいの自己紹介がありました。ふれあい集会では、中学生が司会を担当して、クイズ、ゲーム、ダンスが行われ、大変に盛り上がり、学校を超えて子どもたちの親睦が図られていました。昼食後はドッグショーの見学、ドギーパーク内の見学・散策、買い物等をして楽しい時間を過ごしていました。体育館での閉会式では、学校ごとに感想を発表し、子どもたちは今日一日を振り返り満足した様子で家路につきました。



◆ [第8回陸上競技記録会・講習会

(明日の風アスリート・第3回実技講習会)]

10月5日（土）に第8回陸上競技記録会・講習会（第3回目となるアスリート実技講習会）が、大月市営陸上競技場で予定されていましたが、雨天のため大月市営勤労センター体育館に場所を変更して行われました。小学生（2年生～）・中学生・マスターズ（35歳～）合わせて40名程の参加があり、参加者は開会式・ウォーミングアップの後、立ち幅跳び、立ち五段跳び、上体起こし、反復横跳び、30mダッシュ、30mハードルなど多くの種目に出場して自分自身の記録を確かめました。閉会式では、表彰式が行われ各種目の成績上位者に最優秀賞・優秀賞の金色のメダルが授与され、参加者たちは笑顔で競技会場を後にしました。



◆ [2013 わかつるサイエンスフェスティバル in 都留高 SSH]

10月12日（土）に都留高校（志村憲一校長）では、都留高等学校80周年記念館「鶴聲ホール」において「わかつるサイエンスフェスティバル」（北都留地域教育推進連絡協議会共催）を開催し、北都留・南都留地域の小学生・その保護者など75組（小学生81名）が参加しました。（参加応募組数は、75組を大幅に超えていたため抽選となりました。）

この事業は、次世代の日本を支える地域の子どもたちとその保護者に『科学の不思議』『科学の面白さ、素晴らしさ』を体験してもらい、『科学への興味・関心』を高めてもらうことを大きな目標として企画された行事です。

生徒たちの進行による開祭式に続き「カチャカチャきりり」「あなたは錬金術師」「手作り顕微鏡で細胞を観よう」の3分野に分かれたチャレンジブース、次いで、遊びの広場では「空気砲で遊ぼう」「飛ぶ種の模型を作ろう」「スライムをつくろう」「ドライアイスで遊ぼう」など13のブースが設けられ、理科・数学の先生方の指導・監督のもと、同校のSSHを選択している1・2年生が子どもたちに実験やものづくりを熱心に指導していました。

都留高校は、平成17年度に文部科学省より将来の国際的な科学技術系人材を育成することを目指し理数系教育に重点を置いたスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定校となりました。平成22年度には、更に5年間の継続指定を受け、今年度で通算9年目を迎えました。都留高校はSSH事業でも、理数系教育はもちろん、全国で20名程度しか選ばれないアジアサイエンスキャンプへの生徒の派遣や今年度初めて海外研修を予定するなど国際教育にも力を入れ、素晴らしい成果を上げております。

